

功労調書

(職名) 元 東員町教育委員会委員

(氏名) 三貫納 幸

一、略歴

昭和五十二年三月	秋田県立花輪高等学校	卒業
昭和五十二年四月	ヤマト運輸株式会社	入社
昭和五十五年三月	同	退社
平成十六年五月	株式会社ユニクロ	入社
平成二十三年十一月	東員町教育委員会委員	任命
平成二十六年	株式会社ユニクロ	退社
令和五年十一月	東員町教育委員会委員	退任

二、功労の内容

(一) 平成二十三年の任命から令和五年の退任に至るまでの長きに渡り、東員町教育委員会委員として教育行政の発展に多大な献身的な努力を捧げ、優れた見識と確固とした教育理念をもって学校教育の振興、社会教育の推進、地域文化の向上・発展に多大なる貢献をした。

(二) 平成二十四年に幼児教育の充実を図るため、幼稚園及び保育園における五歳児保育料の減額を推し進めた。この取り組みにより五歳児の幼稚園及び保育園の利用率は押し上げられ、幼児教育の機会の確保とスムーズな小学校移行の実現がもたらされた。

(三) 平成二十七年に東員町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めた「東員町教育施策大綱」の策定に尽力した。「誰一人取り残さない教育の実現」を合言葉に制定されたこの大綱は、誰もが幸せに暮らし、生涯に渡り活躍できる町の実現に向けた活動の柱になっている。

(四) 文化・芸術活動を推進し、伝統文化の保存と継承、文化芸術事業の企画・開催及び文化芸術を発表・鑑賞する場の提供を行った。これにより「こども歌舞伎」、「東員日本の第九演奏会」は、東員町を代表する文化事業として確固たる地位を築き上げ、それ以外にも数々の文化事業が伸び伸びと展開され続けている。

三、 荣誉に関する事項

なし

四、 その他特記すべき事項

なし

功勞調書

(職名) 明和町教育委員会教育長

(氏名) 下村 良次

一、略歴

平成二十九年四月一日 明和町教育委員会教育長に任命（現在に至る）

二、功勞の内容

(一) 平成二十八年に多気郡明和町立上御糸小学校の校長を最後に退職した後は、学校教育に関する深い見識を有することから、明和町教育委員会の教育長に任命され、平成二十九年四月から令和六年三月まで七年に渡り地方教育行政の最前線で活躍し、幅広い人脈と教員時代から培った豊富な経験をもって、明和町の教育行政の推進のために尽力し、現在も三期目で活躍している。

(二) 平成三十一年四月から令和五年三月まで三重県市町教育長会副会長を務めた。また、三重県市町教育長会町部会の会長として、全国町村教育長会への出席のほか、県内の取りまとめなど地方教育行政に尽力した。

(三) 令和元年度の新型コロナウイルス感染症の発生時には児童生徒の安全確保のための学校休業と学力補償のための方法の模索を的確に判断し、混乱する学校現場の先頭に立って導いた。

(四) 町の長年の懸案事項であった「小学校区編制」に取り組んだ。小学校の統廃合に対しての地域住民からの多種多様な意見も真摯に受け止め住民との対話を大切にしながらも強いリーダーシップと的確な判断力で、令和三年六月の「明和町小学校区編制にかかる基本計画」の策定に大きな重責を果たした。現在はこの基本計画に基づき令和八年度開校予定の「明和町立明和北小学校」の開校等に向けての取り組みに尽力している。

新小学校開校にあたっては小中一貫教育、コミュニティ・スクールの導入をはじめ、郷土学習も盛り込み、当人の長年にわたる教育に対する熱い思いである、児童一人ひとりを大切にす地域に根ざした学校を目指し着々と準

備がすすめられている。

(五)

当人は長年にわたる教育現場での経験から教職員からの信頼も厚い。また、誠実で責任感が強く、特に日頃から地域との交流が深いことから学校と地域の橋渡し役として地域からも信頼が寄せられている。

三、 栄誉に関する事項

なし

四、 その他特記すべき事項

なし